



積み残しが心配された、大庄地区河床掘削始まる



武庫大橋下流に仮置きされていた土砂搬出始まる



名塩川非改修区域を微妙に避けて進む名塩道路工事現場



名塩川直線化後の姿が見え始めた



名塩道切り土区間で除伐が進み川が見えるようになった。



車中から見た西宝橋と仮設橋

11月15日から河川工事期間に入り、5月末から中断していた河川改修工事が各所で再開された。この先どうなるのか心配されていた大庄工区工事が再開され、何故こんなところに土砂埋め戻すのか訝しかった武庫大橋下流側の土砂が大庄工区へ運ばれ掘削工事区域の作業エリア堤防につかわれていた。不審に思った工事も確かな計画の元に行われている。現場の警備員から工事が終われば撤去されると聞いた。警備員に撮影依頼、快く応じてくれた。

名塩道工事に伴う名塩川一部直線化工事区間でも工事期間に入り、これまで手つかずになっていた現状河道に工事用仮設暗渠が設けられるなど少しずつ工事のが進み新しい落差工も出来上がり、これから旧河道との接続工事が始まる模様。ちょっと見には分かり難いが、工事図面を読める人の目には完成後の姿が臍気に見えるまで工事は進んでいる。東久保工区の切り土区間の周辺樹木伐採禿げ山状態になり、か細い名塩川の様子が見て取れるようになった。素人目線の誤解かもしれないが、この付近の水路が付け替えられるように見える。もし筆者の推測通りなら（西宮市有水路図では市水路になっている）漁業権は下流側指定箇所から上流までと書いてあり、西宮市水路区間には漁業権が及ばず魚魚組合への説明無かったかも知れない。数年先には景観が大きく変貌するのは間違い無く注目していきたい。